基本施策Ｂ１　被爆の実相を継承します

主管課：被爆継承課

個別施策
- B1-1　平和・原爆施設の整備及び被爆資料の保存・活用を図ります
- B1-2　平和教育・学習の充実を図ります
- B1-3　家族証言等の継承の取組みを推進します

ア 施策の目的

市民が、被爆の実相の継承を進めている。

イ 基本施策の評価

Ｃｂ　目標を一部達成しており、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる

ウ 成果指標（「⇧」は目標値を上回ることが望ましい指標、「⇩」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値（時期）	区分		H28	H29	H30	R1	R2
平和・原爆関連施設入場者数（万人）	92.8 万人（26 年度）	⇧	目標値	94.4	95.2	96.0	96.8	97.6
			実績値	90.5	94.3	91.9	91.8	
			達成率	95.9%	99.1%	95.7%	94.8%	
被爆継承活動をしている人数	434 人（26 年度）	⇧	目標値	478	501	524	547	570
			実績値	480	470	481	471	
			達成率	100.4%	93.8%	91.8%	86.1%	
【補助代替指標】家族・交流証言者登録者数（研修中含む）※【B1-3 から再掲】	12 人（26 年度）	⇧	目標値	32	42	52	62	72
			実績値	35	55	71	83	
			達成率	109.4%	131.0%	136.5%	133.9%	

※施策の成果を補完するため、成果指標として「家族・交流証言者登録者数（研修中含む）」を追加。

エ 評価結果の妥当性

定量的な評価を行った結果としてＣｂという評価結果は妥当であるが、令和元年度は入館者数が横ばいを維持していることや、定性的な評価として、トリップアドバイザーにおける日本の博物館ランキングで平成 30 年度に全国 1 位、令和元年度に全国 2 位になったことから、「Ｂｂ　目標をほぼ達成しており、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる」に限りなく近いと考えられる。

オ 審議会における政策評価に対する意見等

○　基本施策の成果指標として、「平和・原爆関連施設入場者数」があるが、「市民が被爆の実相を継承している」という施策の目的に対して妥当な指標だといえるのか疑問である。成果指標が実態を測れているとは言えないのではないか。

カ 審議会における施策推進に向けた提案

○　現在の平和推進や被爆継承の取組みは専門的だというイメージがあるので、一般市民レベルで平和に関することを簡単に話題にできるようなきっかけづくりの部分を模索していくことも大事ではないか。

○　マンションが増えることで、長崎育ちではなく、平和学習をしていない人も増えてきているように思う。修学旅行生へのごく簡単な道案内ができなくなっているようなので、観光客に平和に関する簡単な説明ができるようになるくらいのレベルで、市民講座を開催してみてはどうか。また、大学と連携するなど、若い人が参加しやすいシステムづくりができないか。

○　積極的に活動している人と一般市民との温度差というのは確かにあるということを意識しなければならない。

キ 次期総合計画の策定に向けた意見

○　成果指標について入館者などの数の指標からシフトしていかなければならない。今までとは違うものさしやアプローチが必要である。

○　広島市の取組みや成果指標などを参考にしたり、比較したりすることも必要である。数値だけでなく、傾向を見ていくことも重要である。